

2009年度

科目名	文化財情報論		
担当教員	坪井 恒彦		
配当	文財2	コード	14490
開期	後期	講時	月曜日4限
		単位数	2
授業テーマ	新聞メディアなどを通して文化遺産のあり方を情報としてどう捕らえ、発信すべきか。		
目的と概要	「文化財情報学」には、文化財自体から取り出した情報をどう処理し活用すべきかという課題と、文化財をめぐる様々な情報をいかに取り扱うべきかという問題が混在しています。本科目では、主に後者の問題へのアプローチとして新聞紙面に紹介された文化遺産にまつわる記事を素材に、「文化財情報」の読み解き方からその整理の仕方、さらに発信側の問題などについて学生諸君とともに考えます。それらの中から特に、「景観」をキーワードに進めていこうと思います。		
成績評価法	平常点。レポートの内容について評価します。		
テキスト	自作のレジュメ集、資料のコピーを配布します。		
参考書	中村良夫著『風景学・実践篇 風景を目ききする』、千田稔著『飛鳥——水の王朝』(いずれも中央公論新社)		
履修に当たっての注意・助言	教壇から学生諸君への一方通行ではなく、諸君からの意見・異論・提案・質問など、積極的な発言を求めます。		
講義計画			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「文化財情報」とは何か</li> <li>2. 新聞紙面に見る文化財情報</li> <li>3. 文化遺産としての文化的景観</li> <li>4. 景観論争と新聞報道</li> <li>5. 遺跡の景観復元と記者の視点</li> <li>6. 「縄文ランドスケープ」論争</li> <li>7. 長江流域と弥生環濠集落の景観</li> <li>8. 三輪山祭祀と邪馬台国論争</li> <li>9. 巨大古墳群周辺の風景</li> <li>10. 古代宮都の景観の伝え方</li> <li>11. 神仙思想・風水思想の風景の描き方</li> <li>12. 情報としての日本人の風景観</li> <li>13. 文化遺産を活用するための情報とは</li> <li>14. 文化財情報の組み立てと発信について</li> <li>15. 総括(レポートなど)</li> </ol>			